

# 今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針（案）（平成25年度～平成30年度） に係るパブリックコメントの実施結果について

平成24年4月17日  
高等学校課

「今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針（案）（平成25年度～平成30年度）」について実施したパブリックコメントの概要は、以下のとおりでした。

## 1 パブリックコメントの実施状況

(1) 応募期間：平成24年2月27日（月）～平成24年3月23日（金） 約1ヶ月

### (2) 意見聴取内容

①生徒減への対応 ②特色ある学科・コースの編成 ③地域と連携した教育の推進

### (3) 応募状況

○応募人数（34名／電子メール：26名、ファクシミリ：7名、郵送：1名）

<居住地別>鳥取市：4名、米子市：10名、倉吉市：2名、八頭町：1名、湯梨浜町：1名、琴浦町：1名、大山町：2名、日野町：1名、日南町：7名、不明：5名

<年代別>30代：4名、40代：11名、50代：11名、60代：4名、不明：4名

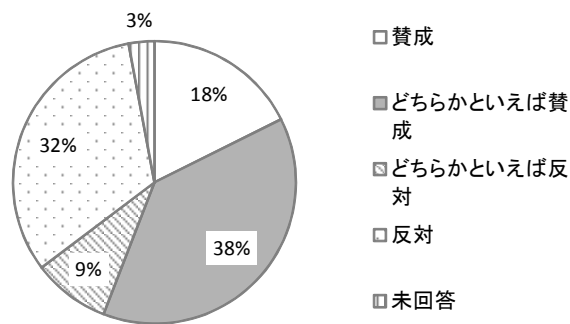
## 2 応募のあった意見の概要

### ①生徒減への対応

<アンケート結果>

生徒減への対応は、学級定員減ではなく  
8学級程度の学級減で対応すること

賛	成	：	6名	
どちらかといえば賛成	：	13名		
どちらかといえば反対	：	3名		
反	対	：	11名	
未	回	答	：	1名



#### ◆「賛成」、「どちらかといえば賛成」を選んだ理由・主な意見

- 学校数を減じてはならない。特に旧郡部の学校は教育の機会均等を図るためにも絶対に残すべき。
- 生徒減に対しては学級数を減らすのはやむを得ないが、中山間地では学校の存続ができなくなる。地域や学校等の意見を聞いて対応してほしい。
- 生徒数が増加するとは予想できないので、いずれ学級減でしのぎ切れない時期が来ると考えるが、その前に「地域と連携した教育の推進」を積極的に行い、合理化を進めることが大切。

#### ◆「反対」、「どちらかといえば反対」を選んだ理由・主な意見

- 学級減ではなく学級定数減で対応すべき。生徒減少期をより細かい教育環境づくりのため、教職員一人当たりの生徒数を減らし、個々の生徒に関われる時間確保をしていくべき。
- 日野高校などのように、既に子どもの数が減っているところは、1学級の定員数を20名程度にしないと学校自体が存続しない。どんなに小さくなくても、学校は残す必要がある。学校がなくなれば、地域も衰退する。

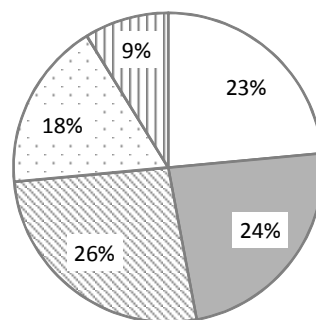
## ②特色ある学科・コースの編成

### 環境エネルギーの分野

<アンケート結果>

スマートグリッド社会に対応できる電気、制御等の知識を持った人材を育成する学科等の編成

賛	成	8名
どちらかといえば賛成		8名
どちらかといえば反対		9名
反	対	6名
未	回	答
		3名



- 賛成
- どちらかといえば賛成
- ▨ どちらかといえば反対
- 反対
- ▨ 未回答

#### ◆「賛成」、「どちらかといえば賛成」を選んだ理由・主な意見

- 大震災等の影響もあり、エネルギー問題に対して全国的に関心が高まっている中、重点的に課題解決が急がれる分野。鳥取県を再生可能エネルギーの先進県とするため是非実現して欲しい。
- IT社会であること、また昨年東日本大震災が起きたことで、電気の使い方や大切さについて見直す必要があると思うので、専門的知識を持った人材を増やすことは必要。

#### ◆「反対」、「どちらかといえば反対」を選んだ理由・主な意見

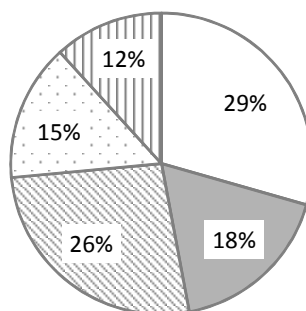
- この分野は、工業の基礎ができていけばすべて解決する。特定の分野が注目されているから強化するのではなく、様々な分野に対応できる基本的な部分を十分理解した生徒を育成すべき。
- 中等教育では特色のある学科等を設置したところで施設設備などに限界があり、中途半端なものにしかならないのは目に見えている。多様な進路に対応する普通科高校を増やすべき。

### 福祉の分野

<アンケート結果>

幼児、老人、障がい者などを対象とした幅広く福祉について学ぶような学科等の編成

賛	成	10名
どちらかといえば賛成		6名
どちらかといえば反対		9名
反	対	5名
未	回	答
		4名



- 賛成
- どちらかといえば賛成
- ▨ どちらかといえば反対
- 反対
- ▨ 未回答

#### ◆「賛成」、「どちらかといえば賛成」を選んだ理由・主な意見

- 高校で資格が取ればベストであるが、実習時間等の問題もあり、難しい場合は、上級学校につながる学科・コースを目指すべき。
- 安心して暮らせる福祉社会の構築は、少子高齢化が加速的に進行する日本において急務な課題である。今の時代に不可欠であり、最も研究が必要とされる分野である。

#### ◆「反対」、「どちらかといえば反対」を選んだ理由・主な意見

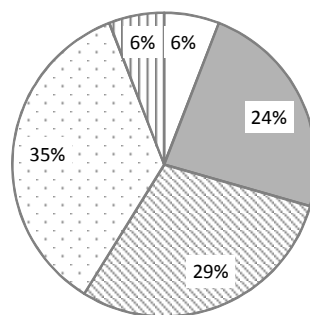
- 中学校卒業段階では、具体的な進路目標が明確ではない生徒が多く、専門的な学科等を増やしても、生徒が入学後なかなか適応できないのでは。
- 高校教育で介護などの資格を取得すること、また15歳の段階で将来の職業を決めることは無理がある。福祉ではなく人を大切にする事の大切さを中心に学ぶということであれば、将来福祉の方面に進む人もそうでない人もいいと思う。その「程度」の福祉の学科であれば賛成。

## 文化芸術の分野

<アンケート結果>

### まんがを含むメディア芸術などの文化芸術分野を学ぶような学科等の編成

賛成：2名  
 どちらかといえば賛成：8名  
 どちらかといえば反対：10名  
 反対：12名  
 未回答：2名



- 賛成
- どちらかといえば賛成
- ▨ どちらかといえば反対
- 反対
- 未回答

### ◆「賛成」、「どちらかといえば賛成」を選んだ理由・主な意見

- 将来漫画家になりたい、アニメ業界に関わる仕事に就きたいと夢みる人は、クラスに必ずやいるのではないかと感じる。夢でなくチャンスを与えてくれそうで、とても魅力的な学科だと感じる。
- 古くからの伝統を受け継いでいくことの大切さを考えたり、新たなアニメーション技術が増えていく中での取り込みなど、芸術や文化に対する関心は高くなっていると思う。

### ◆「反対」、「どちらかといえば反対」を選んだ理由・主な意見

- 高校では普通教育を大切にする。普通教育の中で、芸術分野やアニメ分野を選択できる（将来の職業としてではなく、あくまでも一般教養として）科目をつくれればいい。
- 全体のカリキュラムの中に一部として組み込むのはいいと思うが、中心におくのは反対。この分野の人材を育成したとして、生活の糧として仕事にすることができる者がどれだけいるか疑問。
- ニーズの把握や将来の進路保障など未知の分野（特に文化芸術）であり、イベントや町おこしの感覚で学科・コースを変え、生徒・保護者が困るような編成はして欲しくない。
- 漫画、アニメで将来生計を立てることは難しいのではないかと感じる。この分野は、情報系の専門教科や総合高校の選択教科などでの対応でよい。

## ③既存の学科・コース等について

意見全体の傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな学科の検討ではなく既存の学科を充実すべきとの意見が多数</li> <li>・総合学科については、存続・廃止の両方の意見があった</li> </ul>
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合学科は、設置当初より先細りしている。就職や進学につながらないのでは。日野高校の総合学科を1学級減らして福祉学科を設置してはどうか。</li> <li>○目新しいことを不十分な内容で行っても一時の話題づくりに終わるだけ。新たな学科ではなく、既存の学科を充実すべき。</li> <li>○平成10年に県下初の総合学科ができて13年が経過。導入の成果は上がったと思うし、第3の学科としての位置づけは定着したと思う。系列の再編等でさらに特色を出せるのではないかと感じる。</li> <li>○県教委主導で行ってきたかつての学校再編や学科改編の総括が不十分。学科やコースをいじらず、スタンダードな普通科高校と専門高校へ戻すべき。</li> <li>○総合学科はとても魅力的だと思うが、その良さを伝えきれていない。受験生だけでなく、中学1、2年生とその保護者への早めのアピールが必要だと思う。</li> </ul>

#### ④地域と連携した教育の推進

意見全体の傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間地域の学校は廃止すべきという意見はなく、むしろ地域や地域の生徒のために、存続すべきとの意見が多数</li> <li>・地域活性化を図るためには、学校と地域の連携が必要</li> </ul>
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日野高校はもっと地域（日野町）と連携していく必要がある。<u>地域をあげて日野高校を応援し、日野高校から地域の人材を輩出するんだという機運が必要</u>。そのためにも日野高校でも起業の学科を取り入れてほしい。</li> <li>○岩美（岩美郡）、智頭農林（八頭郡）、日野（日野郡）には、たとえ2学級規模になったとしても、<u>地域活性の観点から、情報発信の拠点、文化教育の中心としての役割を高校が担う意味でも存続が必要</u>。倉吉農業は県下一校の農業高校として充実が必要。</li> <li>○地域が超高齢化、超少子化で悩まされ、過疎化に拍車がかかる中、特色ある取り組みを行えばすぐに地域が活性化されるわけではない。従って、<u>中長期的なスパンで地域との連携を考え、取り組みを継続していくことが大切</u>。</li> <li>○<u>地域の企業・住民が高校生の学びに関わることによって、社会への興味や進路について幅が広がり深みも出て、地域側も高校生との繋がりができる</u>ので大いに進めて欲しい。調整、相互理解を密にして、子ども達に沢山の機会を与えてほしい。</li> <li>○無理に地域と連携する必要はなく、<u>様々なことを学校に取り入れたり、絡めたりせず、落ち着いて各教科を学習することが大切</u>。様々な事業などで行事が入り落ち着かないのではなく、時間割どおりに落ち着いて勉強に迎える環境を保証した方がよい。</li> </ul>

#### ⑤その他の意見

特徴的な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間地域の学校は、規模は小さくなくても地域には必要であり、存続を希望</li> <li>・基礎学力を身につける教育を望む</li> </ul>
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定員割れを起こさないためにも、<u>高校の実情、高校の学習内容等をもっと地域住民に定期的にPRしてもらうこと</u>。高校が地域の中にながら浮き上がってしまってはだめだと思う。</li> <li>○特色のある学科・コースを設定することは大変よいと思うが、高校を卒業した生徒たちに何を期待するのか。一般的には、普通科の生徒は大学進学、専門高校の生徒はその道で就職することだと思う。<u>特定の分野に偏った教育ではなく、基礎学力をしっかりとつけるべき</u>。</li> <li>○高校も少人数学級の導入をしてほしい。子どもたちの個性も多様化する中、以前のような一斉授業では、少子化時代の子どもたちには対応できないと思う。<u>学科名をあまり変えず、幅のある名称にして社会的にも定着させ、時代への対応は授業の中身などで対応できないか</u>。</li> <li>○15歳で将来の職業を決めることは無理がある。<u>工業や水産、商業などいろいろな科があってもいいが、あくまでも目的はその科の学習内容を通して、人の大切さを学べるものであってほしい</u>。今の時代、企業も高校で学んだことを即使えることを期待していない。むしろ企業も、その会社で必要なことは入ってから教える。もっと別の力を求めていると思う。</li> </ul>

### 3 応募のあった意見を受けての基本方針への反映

- 平成25年度から平成30年度までの具体的な学級減や新たな学科やコースなどの編成にあたっては、地域や学校、保護者等の意見を幅広く聞きながら検討する。
- 中山間地域の学校の魅力や特色づくりについては、地域と十分に連携を図りながら学校の在り方を検討する。

### 4 今後のスケジュール（予定）

- 4月～6月：基本方針（案）を検討
- 6月：常任委員会で報告
- 7月～8月：定例教育委員会で最終決定